

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 池田 昇平

論 文 題 目


Clinicopathological characteristics of subtypes of chronic
inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy

(慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチーの病型別臨床病理学的特徴)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

平 田 仁 

名古屋大学教授

委員

木 山 博 資 

名古屋大学教授

委員

阿 部 健 治 

名古屋大学教授

指導教授

勝 野 雅 央 

論文審査の結果の要旨

別紙 1 - 2

今回、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー（CIDP）の現行の診断基準に則った病型分類において腓腹神経病理を多数例で検討し、病型別に異なる病理学的所見を認めることを確かめた。特に典型的 CIDP と比較して、多巣性脱髄性感覚運動型（MADSAM）において神経束間および神経束内の有髄線維密度の差異を認めること、有髄線維密度低下の主な原因は軸索変性であることを示し、病型間で背景病態が異なる可能性が示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 典型的 CIDP、MADSAM の両者において、腓腹神経病理ではマクロファージによる脱髄像が確認され共通の免疫介在性の病態の存在を示した。一方、MADSAM における軸索変性はより近位部の脱髄病変による二次性的変化が疑われ、脱髄病巣の首座が腓腹神経生検部位より近位の神経幹に存在する可能性が推察される。電気生理学的検討では、典型的 CIDP は血液神経関門が生理的に欠如している遠位部神経終末および神経根に病変が好発する一方で、MADSAM は血液神経関門が本来機能している神経幹に局所性伝導ブロックを認めるという報告があり、本研究においても典型的 CIDP の電気生理学的結果において同様の知見を認めている。本研究の病理学的結果はこの病型間の病変部位の違いを支持するものである可能性がある。
2. 本研究では、全ての病型でマクロファージによる脱髄像が確認された。小血管周囲のリンパ球浸潤については、いずれの病型においても有髄線維密度の神経束間差異が高度な症例で認める傾向があり、一部に病態の重なりが示唆された。
- 3,4. CIDP に複数の病型が存在することは共通の認識であるが、現行の診断基準においても各病型を分類する明確な定義が存在せず、障害分布や障害の性質など臨床症状により分類されている現状がある。病型別の割合についての既報告では特に非典型的 CIDP の病型内訳が大きく異なっており、この原因が人種および民族的な背景による多様性なのか、異なる臨床診断基準を用いている事による差異であるかの評価が困難である。各病型の背景病態および病型分類のためのバイオマーカーを明らかにする事が喫緊の課題であり、本研究は CIDP の現行の診断基準における各病型の背景病態の解明において、特に病理学的観点から重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	池田 昇平
試験担当者	主査	平 田 仁	副査 ₁	木 山 博 資
	副査 ₂	門 松 健 治	指導教授	勝 野 雅 央
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 典型的CIDPと多巣性脱髄性感覚運動型 (MADSAM) の病態機序が異なる可能性について 2. 腓腹神経病理像における炎症細胞浸潤の病型間差異について 3. 病型別の病理学的特徴を検討する意義について 4. CIDPの病態解明への展望について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、神経内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				